

困難な状況における心のあり方を名著に学ぶ



杏林製薬 代表取締役社長 CEO
荻原 豊 さん【前編】
 おぎはらゆたか

1967年東京都生まれ。青山学院大学理工学部卒。90年杏林製薬入社。2011年取締役社長室長、16年常務取締役、19年4月キョーリン製薬HD常務取締役経営戦略室長などを歴任し、19年6月から現職。

2023年に創業100周年を迎えた杏林製薬を統べる荻原豊さん。「何かにつまずいた時に助けとなるのが読書。ためになった100冊をリストにし、時には社員に勧めています」。前編では経営の参考になった書を取り上げる。

R

【読む】
Reading

100冊の
リストを
少しずつ更新

子どもの頃は江戸川乱歩の少年探偵シリーズなど推理ものに没頭しましたが、私の読書歴の大半は実用書です。物語や小説にはあまり惹かれず、プログラミングなど興味のある分野に役立つ本を読んできました。読書量が圧倒的に増えたのは社会人になってから。仕事や人づきあいにおいて自分に足りない部分があると感ずることが多かったからです。そこで、アマゾンのビジネス書の売れ筋にラン

L

【率いる】
Leading

新薬の創製が
1丁目1番地
ゼロから1を生む

クインした本を1位から順に読んでいきました。その中から参考になった100冊をリストにし、今も少しずつ更新しています。社長に就任後はマンツーマンで社員にインタビューする時間を設けており、たまに「どんな本を読むといいでしょう」と聞かれることがあります。その人に合いそうな本を100冊から選り抜いて勧めています。何年も売れ続けている本はやはり名著が多く、その中でもサミュエル・スマイルズの『自助論』は心に残りました。ミケランジェロ、

「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します」という企業理念のもと、2023年度より長期ビジョン「Vision10」をスタートしました。医療ニーズに応える価値の高い新薬を継続的に提供する新医薬品事業を中核に据え、健康関連事業を複合的に展開し、人々の健康に幅広く貢献する企業を目指しています。医療財政の逼迫に伴う度重なる政策変更など、医薬品業界を取り巻く環境は日々不確定性が増しています。そうした中、当社グループは新薬の創製を1丁目1番地に据え、最先端の情報や技術にアクセスできる体制づくりやその人材育成など、ゼロから1を生むための様々な取り組みを進めています。医薬品の研究開発の成功確率は今や約3万分の1とも言われており、非常に難易度が高く、失敗の連続です。私は理工学部の出身で、もともととはエンジニアですが、仮説と検証を繰り返すプロセスはプログラミングも創業も同じで、容易に成果が出ない苦労も同様に、うまくいったときの感動もよく分かります。ですからそのプロセスを丁寧に見ていきたいですし、努力や創意工夫が報われた時のゾクゾク感をすべての社員に味わってほしい。その環境を整えることがリーダーとしての務めだと思っています。(談)

経営の指針として座右の書とした
荻原 豊さんのおすすめ本



『自助論』
 (三笠書房) サミュエル・スマイルズ・著 竹内均・訳

人生をいかに生きるべきか——。自分を活かすための不朽の人生論。刊行以来、世界数十カ国の人々の向上意欲をかきたて、希望の光明を与え続けてきた、ベスト&ロングセラー。

【後編】は1月11日付朝刊に掲載予定

コロナ下の自粛期間に料理と料理本に目覚める



杏林製薬 代表取締役社長 CEO
荻原 豊 さん【後編】
 おぎはらゆたか

1967年東京都生まれ。青山学院大学理工学部卒。90年杏林製薬入社。2011年取締役社長室長、16年常務取締役、19年4月キョーリン製薬HD常務取締役経営戦略室長などを歴任し、19年6月から現職。

「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します」という企業理念のもと、医療用医薬品事業などを展開する杏林製薬。後編は荻原豊さんが趣味の世界で感銘を受けた書を取り上げる。

R

【読む】
Reading

料理人の
技と気づかひに
感嘆した一冊

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は医薬品業界に甚大な影響を与えました。ここ数年の患者さんの受診抑制の動きは当社グループの経営にとっても試練でしたが、現在では、コロナ禍前の水準に回復するとともに、成長ドライバーとして期待する新薬が出揃ったことにより、新たな成長期を迎えたものと捉えています。

E

【楽しむ】
Enjoying

10代の頃から
興味が尽きない
プログラミング

コロナ禍は人々の生活も一変させ、私自身、外出の自粛が求められた2020年は出社時間が大幅に減りました。自粛期間の最初の数日は家の大掃除をしたり断捨離をしたり。そのうち何かクリエイティブなことかしたいと、料理を始めました。一人暮らしをしていた若い頃の自炊はズボラ料理ばかりでしたから、簡単でおいしいと評判の料理研究家・リュウアウトドアの趣味としては、小学生時代から高校時代まで硬式テニスをやっていた。近頃は息子も始めたので、一緒にプレーする楽しみができました。これから挑戦してみたいのは、最低限の道具だけで自給自足のキャンプをするプッシュクラフト。コロナ禍の反動で自然を求めているのかもしれない。

私の得意分野は工学系で、中学時代からコンピュータに触れていました。数学教師の準備室にアメリカのコモドール社のコンピュータが置いてあり、先生がカチャカチャ動かしているのが面白くいつも覗いていたら、触らせてくれるようになったのです。高校では巨大なコンピュータが使われなまま置いてあったので、動かして遊んでいました。自然とプログラミングに興味向き、それは今日まで続いています。最近では人気のプログラミング言語「Python(パイソン)」を使ってプログラムを書いています。アウトドアの趣味としては、小学生時代から高校時代まで硬式テニスをやっていた。近頃は息子も始めたので、一緒にプレーする楽しみができました。これから挑戦してみたいのは、最低限の道具だけで自給自足のキャンプをするプッシュクラフト。コロナ禍の反動で自然を求めているのかもしれない。

「プロの技術と気づかひに感嘆した」
荻原 豊さんのおすすめ本



『完全理解 日本料理の基礎技術』
 (柴田書店) 野崎洋光・著

日本料理の技法を豊富な写真で追いつながり、まるごと解説。新人の心構えから板長の役割まで、料理人の仕事を部署ごとに順を追って理解できる。料理人としての修業ストーリーの側面を持つ一冊。

時間を忘れるほど仕事や研究に没頭する情熱は、当社グループ全体で共有したいことです。一方で福利厚生生の制度を活用しながらワーク・ライフ・バランスを保つよう社員に伝えています。人々の健康への貢献を標榜する会社ですので、リラックスの時間も大切にしています。(談)

【前編】は1月3日付朝刊に掲載されました

朝日新聞社メディア事業本部ウェブサイトでは、荻原豊さんが語るリーダー論を紹介しています。
<https://adv.asahi.com/> 広告朝日

